2013年3月期
第2四半期決算説明会

2012年11月2日

株式会社日清製粉グループ本社

目　次

1. 2013年3月期　第2四半期（累計）実績

2. 2013年3月期　通期見通し

3. 中期経営計画「NNI－120」（2012～2014年度施策）
　の具体的成果

2013年3月期
第2四半期（累計）実績

第2四半期（累計）実績

Miller Milling社買収効果もあり売上は前年比103．4%
食品事業における拡売費増加等により営業利益は前年比95．1%
四半期純利益は前年比102．3%

（単位：百万円）

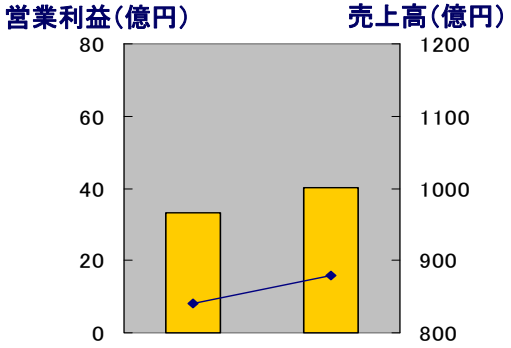
	2013年3月期 2Q累計実績	業績見通し		前年	
		見通し	見通し比	前年実績	前年比
売上高	221,797	224,600	98.8%	214,587	103.4%
営業利益	9,912	10,600	93.5%	10,421	95.1%
経常利益	11,468	11,900	96.4%	11,892	96.4%
四半期純利益	6,833	7,100	96.3%	6,677	102.3%

第2四半期(累計)実績(セグメント別)

◆——◆ :売上高　　:営業利益

＜売上高及び営業利益の前年差主要因＞

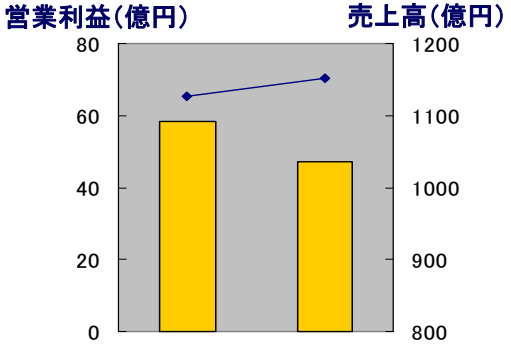
製粉



・売上:国内の小麦粉出荷は前年を下回ったが、Miller Milling社の買収効果もあり38億円増加

・利益:コストダウン及びふすま価格の比較的堅調な推移等により7億円増加

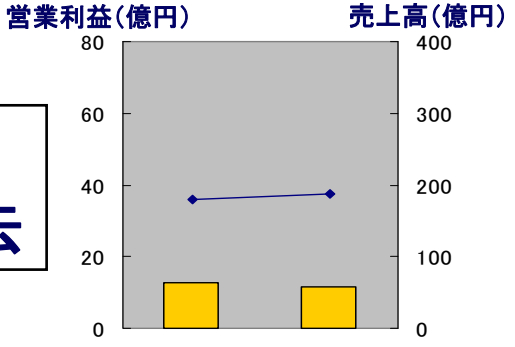
食品



・売上:加工食品、酵母・バイオ、健康食品それぞれが増加し、24億円増加

・利益:加工食品の拡販費用の増加等により▲11億円減少

その他 全社・消去



・売上:エンジニアリング事業の好調により10億円増加

・利益:ペットフードの販売条件悪化等により▲1億円減少

第2四半期（累計）の状況

製粉事業における上期の取組み

- トップライン拡大施策を最優先施策とし、拡販に努めたが、国内小麦粉市場が縮小する厳しい市場環境下、出荷は前年を下回った
- 一方、コストダウン施策の効果もあり、製粉セグメントの営業利益は増益
- 今年3月に買収したMiller Milling社については、経営体制の移行、業績とも順調に推移

第2四半期（累計）の状況

食品事業における上期の取組み

- 重点的に拡販を図っている冷凍食品及び中食・惣菜は前年を大幅に上回る出荷を達成
- デフレの影響及びPBを含む廉価品の拡大により市場環境が一層厳しくなる中、主力のパスタ、天ぷら粉等でシェアアップ実現
- 加工食品の拡売費増加等により食品セグメントは減益

2013年3月期　通期見通し

2013年3月期　通期見通し

下期のトップライン拡大、Miller Milling社買収効果により
増収見込み

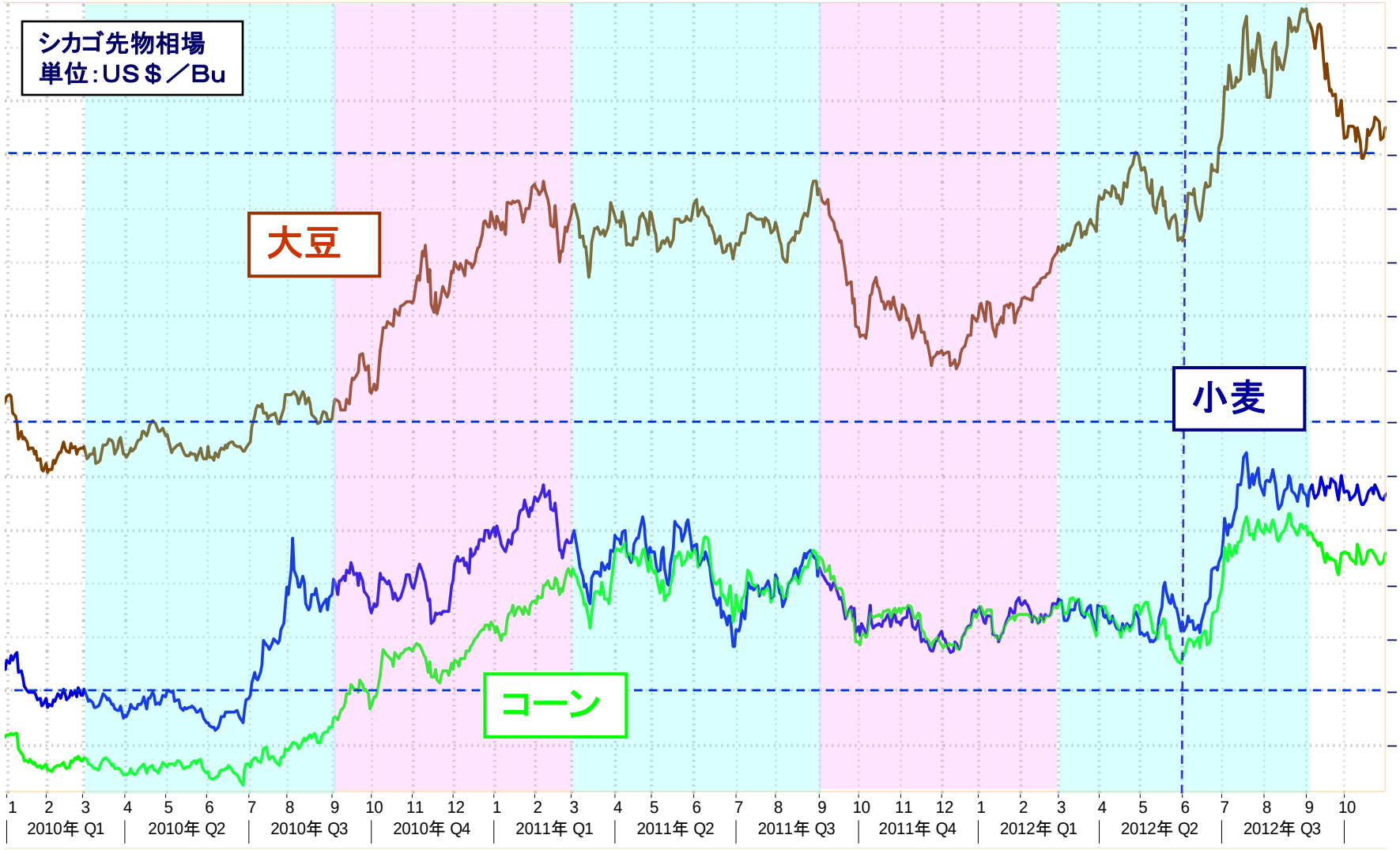
コストダウンの実施及びふすま市況の回復等を見込み
通期利益見通しを据え置き

（百万円）

	2013年3月 見通し	2012年3月 実績	前年差	前年比 （%）
売上高	459,100	441,963	＋17,136	103.9%
営業利益	23,500	23,113	＋386	101.7%
経常利益	26,300	26,132	＋167	100.6%
当期純利益	14,600	13,326	＋1,273	109.6%

穀物相場の状況

【穀物相場推移】



注）グラフは、農水省の輸入小麦売渡価格算定期間ごとに色分けしている

穀物相場の状況

2011年以降、コーンと大豆の世界在庫レベルが低水準で推移していたところ、本年米国で56年ぶりと言われる大旱魃が発生

世界の小麦在庫は潤沢で、今年の作柄も世界的に良好だが
コーンと大豆につられて小麦相場も高騰

- 本年6～8月に小麦相場は高騰
- 本年10月より 輸入小麦の政府売渡価格は平均3%引上げ
  （ハード・セミハード系0%、ソフト系8%）
- 当社は12月20日からの小麦粉価格改定を発表

穀物相場の状況

＜ 今後の国際小麦相場見通し ＞

上昇要因

- 西豪州の降雨量が例年を下回って推移しており、小麦の作柄悪化懸念
- ウクライナを始めロシア等小麦主要生産国で禁輸（輸出関税含む）の懸念
- 小麦⇒大豆、コーンへ作付けがシフトする見込み

下落要因

- 穀物相場からの投機資金撤退による相場沈静化
- 南米等の穀物生産国でのコーン等の良好な作柄見込み
- 穀物消費量の減少による需給緩和（ﾊﾞｲｵ燃料向け等）

2013年4月の輸入小麦政府売渡価格に影響

2013年3月期　通期見通し

＜製粉事業の取組み＞

- 以前より取り組んできた差別性のある製品提案等の『価値営業』により拡販を図る
- コストダウン、ふすま市況改善により対前年増益を見込む

＜食品事業の取組み＞

- 新製品の投入及びコストダウンにより収益改善を図る
- 日清製粉プレミックス㈱を設立し、プレミックス事業を強化
- EPA-E（ｴｲｺｻﾍﾟﾝﾀｴﾝ酸のｴﾁﾙｴｽﾃﾙ）の販売等、各施策を着実に実行
- 本年２月に稼働したオリエンタル酵母工業の富里総菜新工場を活用し、拡販を図る

中期経営計画「NNI－120」（2012～2014年度施策）の具体的成果

中期経営計画施策の具体的成果

福岡新工場建設に着工

- 設備投資額：約100億円
- 工場能力
  - 1日当り小麦挽砕能力550トン（2ライン）
  - 小麦粉サイロ収容力5,000トン
  - 立体自動倉庫収容力21万袋（5,250トン）
- 本年5月着工、2014年2月完工
- 「ローコスト体制」と「安全・安心、安定品質の製品製造」の両立
- 2014年2月新工場稼働
  ⇒鳥栖・筑後工場の閉鎖による生産集約により生産性向上



（製粉福岡新工場の工事風景：2012年10月）



（製粉福岡新工場の完成予想図）

中期経営計画施策の具体的成果

ミックスビジネスの再構築

1．日清製粉プレミックス㈱を本年10月1日に設立
　資本　　：　資本金4億円
　　（出資割合　日清フーズ80%、日清製粉20%）
　事業内容：　業務用プレミックスの製造・販売

2．設立の目的

- ◆ グローバル・カンパニーとして、事業戦略策定から開発・生産・販売まで一体で実行することで事業推進力強化
- ◆ 技術開発力の高度化と人材育成
- ◆ 国内外での営業における顧客対応力・競争力強化

プレミックス事業の拡大のスピードアップ

中期経営計画施策の具体的成果

オリエンタル酵母工業㈱　総菜新工場稼働

本年2月 富里総菜新工場(千葉県)稼働

- ◆ 製造能力倍増(400t/月 ⇒ 800t/月)及び生産性向上による拡販体制強化
- ◆ 新設備(高温ｸｯｶｰ等)を活用し、新製品の開発強化
- ◆ ビガーマーケット(ベーカリー市場以外)向け製品群の充実による拡販強化
- ◆ 安全・安心な製品の提供



(オリエンタル酵母工業富里工場外観)



(富里工場連続殺菌ﾗｲﾝ)

中期経営計画施策の具体的成果

日清ファルマの医薬品原薬事業の拡大

【新規医薬品原薬の販売開始】

- ◆ 原薬名 ： EPA-E（エイコサペンタエン酸のエチルエステル）
- ◆ 販売先 ： Amarin Pharma, Inc.（米国の医薬品企業）
- ◆ Amarin社の新薬名 ： Vascepa™（米国で販売される医薬品名）
- ◆ Vascepa™の効能 ：高脂血症（高トリグリセリド（TG）血症）の治療薬

・ Amarin社は米国FDAより現地2012年7月26日に米国における Vascepa™の販売承認取得（新薬は2013年1月販売開始予定） 今年度の当社のEPA-E売上見込みは約20億円

・ FDAの承認は血中TG値が500mg/dL以上の比較的重症な患者（米国でこの範疇に入る患者数は推定約400万人）が対象

・ Vascepa™ は主要な既存薬（米国での売上高800億円）に対して LDL（悪玉）コレステロールを増加させないという優位性を有する

中期経営計画施策の具体的成果

Miller Milling 社の状況

- **新経営体制**に順調に**移行（PMI）**
  （日清製粉より社長、副社長、設備技術者、製パン技術者を含むマネジメントチームを現地に派遣）
- 既に**製パン技術支援サービス**を展開、顧客には好意的に受け止められ、**顧客**との**関係強化**が図れている
- 現在**能力増強**工事を行っており、2013年1月完成・稼働予定

	現　在		増能力後
Winchester工場	1,190トン/日	→	1,640トン/日（+450トン）
Fresno工場	535トン/日		595トン/日（+ 60トン）
合　　計	1,725トン/日		2,235トン/日（+510トン）

中期経営計画施策の具体的成果

各社の海外新規取組み及び海外での能力増強

◆ 日清STC製粉：約2割の設備能力増強実施中
本年12月完成・稼働予定

◆ オリエンタル酵母工業

・本年1月に設立したインド現地法人において、バイオ製品（診断薬原料等）の拡販推進

・本年1月に設立したシンガポール駐在事務所を活用し、東南アジア食品市場の開拓・調査推進

◆ NBCメッシュテック

インドネシア工場の製造能力倍増（投資額5億円）工事中
本年12月完成予定
生産コスト低減 ＋ アセアン・中国向け輸出競争力強化

中期経営計画施策の具体的成果

製粉ミュージアム 完成・オープン

- 本年11月12日(月)に当社創業の地である群馬県**館林市**に世界的にも貴重な製粉(小麦・小麦粉)をテーマにした**企業ミュージアム**をオープン
- 館林市において**観光資源**や**教育資産**として寄与する
- ミュージアムは、当社の歴史と伝統を語り継ぐ**本館**と製粉に関する様々な情報を紹介する**新館**、並びに気軽な憩いの場である**日本庭園**で構成



製粉ミュージアムの全景



本館:明治創業時代の歴史的価値の高い洋風建築物

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。